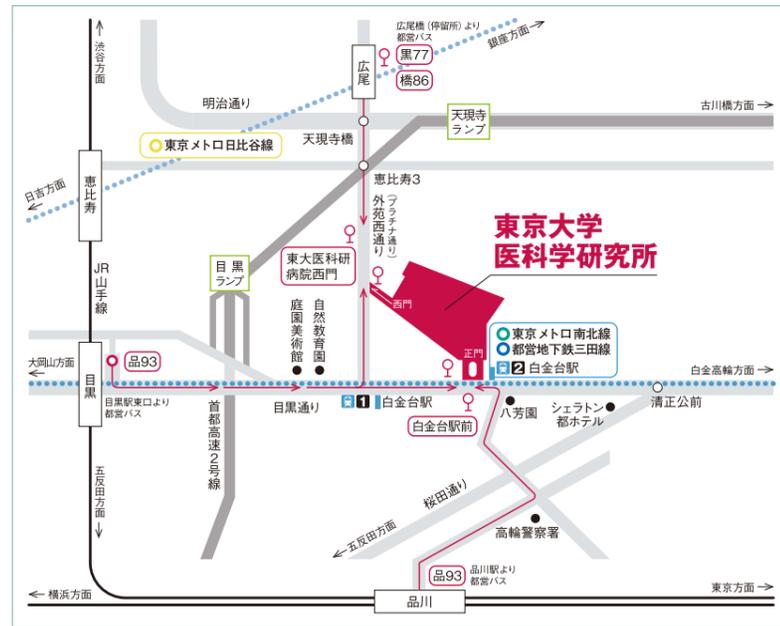


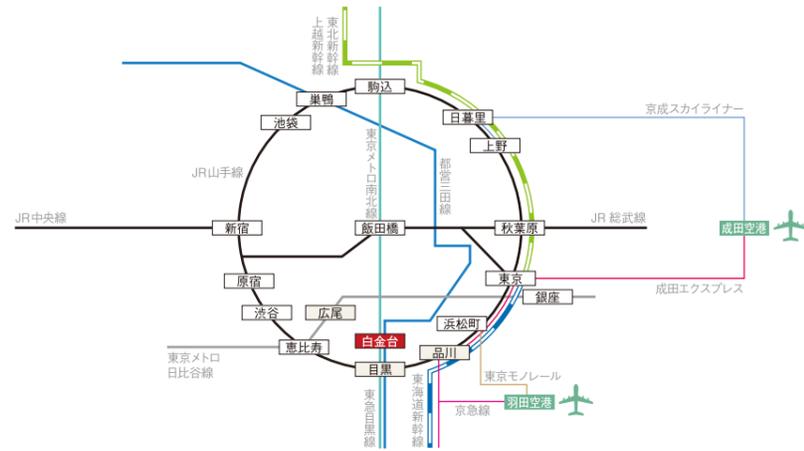
THE INSTITUTE OF MEDICAL SCIENCE THE UNIVERSITY OF TOKYO OF TOKYO



【電車をご利用の場合】
 白金台 ● 東京メトロ南北線・都営三田線「白金台駅」下車 2番出口(日吉坂方面出口)から歩いてすぐ
 目黒 ● JR山手線「目黒駅」下車 東口から徒歩15分

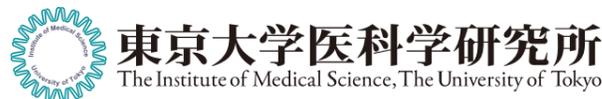
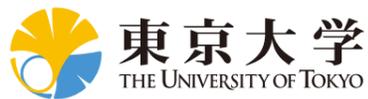
【バスをご利用の場合】
 目黒 ● JR山手線「目黒駅」東口から都バス(品93)大井競馬場行で、「白金台駅前」下車
 あるいは都バス(黒77)千駄ヶ谷駅前行または(橋86)新橋駅前・東京タワー行で、「東大医科研病院西門」下車
 品川 ● JR「品川駅」から都バス(品93)目黒駅前行で、「白金台駅前」下車
 広尾 ● 東京メトロ日比谷線「広尾駅」そばの(広尾橋)から都バス(黒77)または(橋86)目黒駅前行で、「東大医科研病院西門」下車

The Institute of Medical Science, The University of Tokyo



<https://www.ims.u-tokyo.ac.jp/imsut/jp/access/access/>

<https://www.ims.u-tokyo.ac.jp/imsut/jp/>



〒108-8639 東京都港区白金台 4-6-1 TEL.03-3443-8111(代表)



東京大学医科学研究所

大学院教育



白金の丘の上、東京の中心にありながら緑豊かで暖かみのあるキャンパス

ここは日本と世界を結ぶ、医科学研究と先端医療開発の中核拠点です

医科学研究所は恵まれた環境の中で最先端の教育と研究を進めます

知の自由と多様性を楽しみ世界の最先端で活躍する
独自の疑問と発想を起点に未踏の医科学を紡ぎ出す

医科学の最先端研究と先進医療開発の国際拠点である東京大学医科学研究所は、大学院学生の皆さんに世界を牽引する研究・開発を実体験として学ぶ場を提供します。ここでは、AI・スーパーコンピュータや附属病院の先端医療を含む最新の施設・設備や解析・医療技術を駆使して、情報科学、理学、工学、農学、薬学、医学、倫理・公共政策学などの様々な学問が「医科学」をキーワードとして織りなす学際研究と、遺伝子・ウイルス・細胞治療やワクチン・免疫治療、AI医療などの先端医療開発が一体となって進められています。この、世界トップレベルの研究者が集う唯一無二の環境の下、多様性豊かな、意欲ある大学院学生が個々の研究科の枠を越え、互いに切磋琢磨しながら成長しています。将来の人類社会全体の発展と福祉を担う大学院学生の皆さんには、医科学研究所の知の自由と多様性を重んじる研究環境を楽しみ、皆さん自身の疑問と発想を起点とする医科学研究を創出し、世界の最先端で活躍することを期待します。



医科学研究所 第28代所長 山梨 裕司

人類社会の発展と福祉への貢献



01 伝統と最先端の融合

1892年以來の伝統と先端性。
東京大学の附置研究所であり、独自性の高い医科学のための研究所です。



伝染病克服のために創設

東京大学医科学研究所の前身、大日本私立衛生会附属伝染病研究所は、当時最大の医療問題であった伝染病を克服する為に、ドイツで多大な研究成果を挙げた北里柴三郎博士を所長に招いて創立された民間の研究所でした。ここでは、伝染病の解明のための医学研究と、病に苦しむ人々を救うための先端的な医療提供、また伝染病予防の為の教育が行われていました。時代のニーズの変化により、研究対象を感染症だけでなく、がんやその他の難病へと広げ、1967年に伝染病研究所から医科学研究所へと改組されました。医科学研究所という名称には、東京大学の附置研究所として、医療応用を目指して自由な重点課題について研究を推進する、という意味合いが込められています。

【研究所の沿革】 ●明治25年／大日本私立衛生会附属伝染病研究所設立 ●明治32年／内務省所管の国立伝染病研究所となる ●明治39年／現在の港区白金台に新築移転 ●大正3年／文部省に移管 ●大正5年／東京帝国大学附置伝染病研究所となる ●昭和22年／東京帝国大学は東京大学となる ●昭和42年／伝染病研究所から医科学研究所に改組 ●平成12年／23研究部を基幹3部門に改組 ●平成13年／近代医科学記念館開設 ●平成15年／総合研究棟、新病院棟竣工 ●平成16年／国立大学法人法により国立大学法人東京大学医科学研究所となる

附属病院を持つわが国最大規模の医科学の研究所

白金の高台にあるキャンパスには、緑に囲まれ恵まれた環境の中に多くの建物が立ち、1000人近くの教職員、ポストドクトラルフェロー、大学院学生らが、医科学研究と先端医療開発、その推進に力を注いでいます。医科学研究所は、常に人々の健康にとって重要な課題に挑戦し、時代をリードする研究成果を上げてきました。本研究所の大きな特徴は、附属病院を持つわが国最大規模の医科学の研究所であることにあり、このことが「ベンチからベッドサイドまで」、「基礎研究から応用まで」、の医科学研究を展開する大きなアドバンテージになっています。感染症やがん、免疫・神経・筋疾患などの難治性疾患の制圧を目指し、ゲノム医学、再生医学、疾患モデル動物などを課題とするプロジェクト型研究を展開すると共に、遺伝子・ウイルス治療や細胞治療、ワクチン開発、AI医療等の先端医療開発を推進しています。ここでは「個人の自由な発想に基づく独創的な研究」、「目的志向型の研究」が両輪として進められ、世界をリードする研究、医療、及びそれらと密着した教育が展開されています。



02 研究部門とセンター

3つの基幹研究部門と特定のミッションを持った研究センター群。
構成する分野単位で特色ある研究を進めています。



研究部門

● 感染・免疫部門

○ウイルス感染分野 ○感染遺伝学分野 ○ウイルス病態制御分野
○ワクチン科学分野 ○マラリア免疫学分野

● 癌・細胞増殖部門

○人癌病因遺伝子分野 ○腫瘍抑制分野 ○癌防御シグナル分野

● 基礎医科学部門

○神経ネットワーク分野 ○分子シグナル制御分野

附属研究施設

● ヒトゲノム解析センター

○ゲノムデータベース分野 ○ゲノム医科学分野 ○シーケンス技術開発分野
○シーケンスデータ情報処理分野 ○機能解析イン・シリコ分野 ○公共政策研究分野
○医療データ情報学分野 ○健康医療インテリジェンス分野

● システム疾患モデル研究センター

○先進病態モデル研究分野 ○自然免疫研究分野 ○生体システム研究分野
○遺伝子操作動物研究分野 ○ゲノム編集研究分野

● 先端医療研究センター

○分子療法分野 ○細胞療法分野 ○感染症分野 ○臨床ゲノム腫瘍学分野
○先端がん治療分野 ○先端医療開発推進分野 ○先端ゲノム医学分野 ○生命倫理研究分野

● 幹細胞治療研究センター

○再生医学分野 ○幹細胞分子医学分野 ○幹細胞移植分野 ○幹細胞シグナル制御分野
○幹細胞プロセッシング分野 ○幹細胞病理学分野 ○幹細胞生物学分野
・FACSコアラボラトリー ・ステムセルバンク

● 感染症国際研究センター

○高病原性感染症系 ○感染制御系 ・ウイルス学分野 ・システムウイルス学分野
○病原微生物資源室

● 国際粘膜ワクチン開発研究センター

○粘膜バリア学分野 ○自然免疫制御分野 ○臨床ワクチン学分野
○粘膜ワクチン学分野 ○粘膜共生学分野

● 遺伝子・細胞治療センター

○分子遺伝医学分野

● 実験動物研究施設

○先進動物ゲノム研究分野

● 奄美病害動物研究施設

● 疾患プロテオミクスラボラトリー

● アジア感染症研究拠点

● 遺伝子解析施設

寄付研究部門・社会連携研究部門

○再生基礎医科学国際研究拠点寄付研究部門 ○RNA医科学社会連携研究部門
○国際先端医療社会連携研究部門 ○先端ゲノム医療の基盤研究寄付研究部門
○先進的バイオ医薬品学社会連携研究部門 ○がん生体分子治療社会連携研究部門
○ゲノム予防医学社会連携研究部門

医科学研究所附属病院

○血液腫瘍内科 ○感染免疫内科 ○アレルギー免疫科 ○総合診療科 ○ゲノム診療科
○放射線科 ○緩和医療科 ○病理診断科 ○外科 ○麻酔科 ○関節外科 ○脳腫瘍外科
○セルプロセッシング・輸血部 ○検査部 ○TR・治験センター ○抗体・ワクチンセンター
○治療ベクター開発センター ○エイズワクチン開発担当

研究支援組織

○発生工学研究支援室 ○病理コアラボラトリー ○顕微鏡コアラボラトリー
○スーパーコンピュータ ○動物センター ○安全衛生管理室 ○研究倫理支援室
○図書室 ○ITサービス室 ○写真室 ○遺伝子組換え・微生物研究支援室

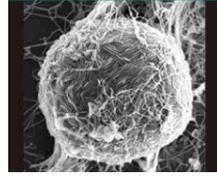
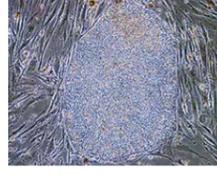
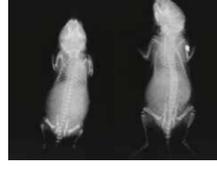
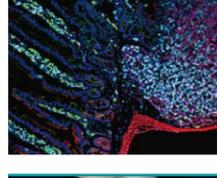
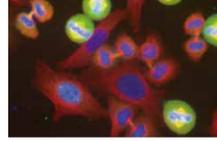
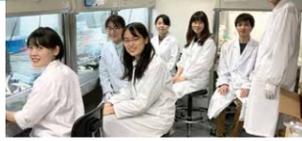
医科学研究所の機構組織

医科学研究所は、感染・免疫部門、癌・細胞増殖部門、基礎医科学部門の3つの基幹研究部門に加えて、7つの目的指向型センター及び附属病院、施設、寄付研究部門・社会連携研究部門等で構成されています。各部門・センターは、各々複数の分野から構成されており、分野単位で特色ある研究が推進されています。また、コアラボラトリーや共通施設、支援室などが設置され、研究のサポート体制が整えられています。



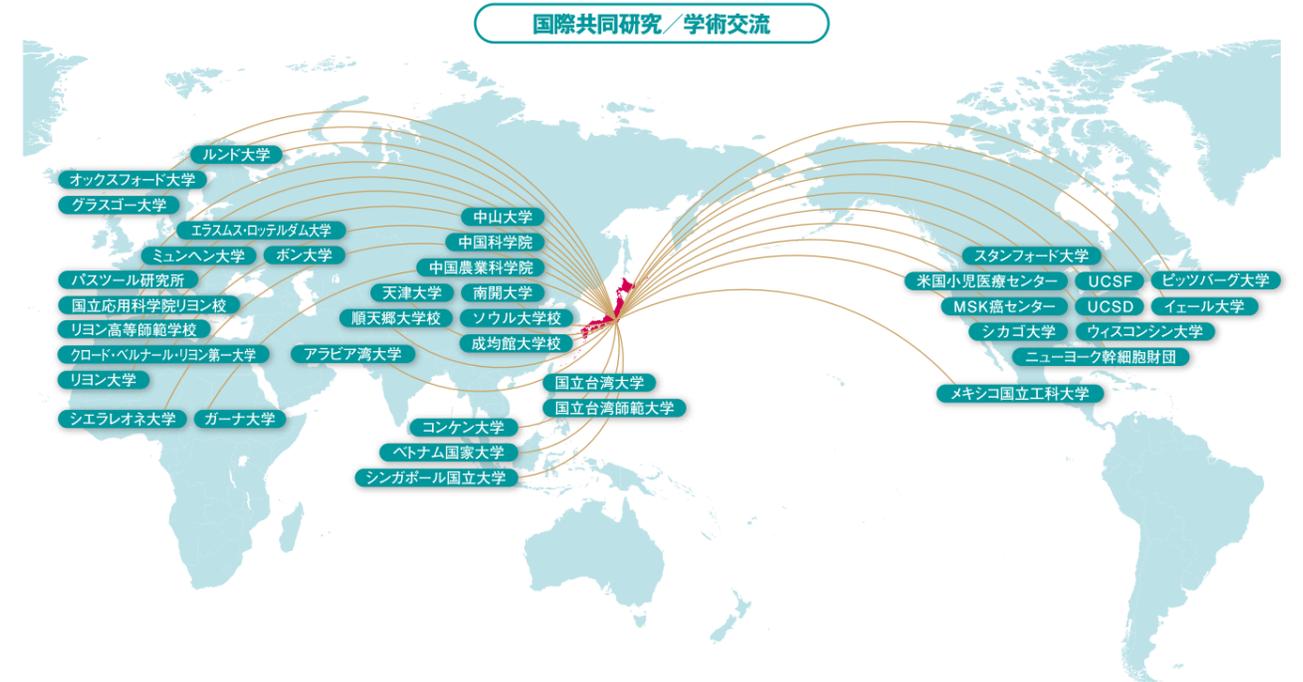
03 研究プロジェクト

様々な研究分野の研究者が白金キャンパスに集い、「自由な発想に基づく独創的な研究」と「目的志向型の研究」を展開しています。

	<h3>1. 人工知能を用いたゲノム医療プロジェクト</h3> <p>データサイエンスに特化したスーパーコンピュータシステムSHIROKANEを用いて、個人個人のゲノム・がんゲノムの解析、ゲノムデータ解析技術の開発を行っています。人工知能により、病気の罹り易さや、薬の効き易さに関するゲノム情報等を同定し、ゲノム医療を実践するための成果をあげ、ゲノム情報データベースなども提供しています。</p>	
	<h3>2. 感染症・炎症疾患克服のための研究プロジェクト</h3> <p>インフルエンザウイルス、単純ヘルペスウイルス、マラリア原虫について、感染機構、病原体認識機構、宿主応答に関する研究を行っています。新規ワクチンの開発や、抗ウイルス薬耐性に関する研究も実施しています。自己免疫疾患など、炎症性疾患の病態解明、治療薬開発にも取り組んでいます。</p>	
	<h3>3. 幹細胞の基礎研究と応用研究</h3> <p>ヒトiPS細胞などの多能性幹細胞や造血幹細胞などの体性幹細胞を対象として、疾患の病態解明や新しい治療法を開発を目指す研究を行っています。すなわち、幹細胞制御機構の解明や疾患iPS細胞を用いた病態解析などの基礎研究から、臨床応用を目指した幹細胞操作技術の開発などの実用化研究を展開しています。</p>	
	<h3>4. がん細胞の増殖、浸潤、転移メカニズム解明研究</h3> <p>がん化の鍵となる分子や、がんの増殖、浸潤、転移など、がんの悪性化に関わる分子の機能を、分子生物学的アプローチ、遺伝学的手法、プロテオミクス、モデル動物を用いた解析に加えて、数学を用いたシミュレーション法等を駆逐することで解明し、その成果を臨床応用することを目指しています。</p>	
	<h3>5. ヒト免疫の獲得・維持機構の解明研究</h3> <p>病原体侵入や炎症に対する制御機構の解明や、自然免疫ネットワークの解明などの研究を行っています。国際粘膜ワクチン開発研究センターでは、粘膜をはじめとする各組織のバリアや各種免疫細胞を介した免疫制御、さらには次世代型のワクチン生産・送達システムを利用した次世代ワクチンの開発を展開しています。</p>	
	<h3>6. 医療開発のモデル動物作製と疾患メカニズム研究</h3> <p>様々な疾患のモデル動物作製を通じて、疾患の発症・進展メカニズムを明らかにする研究を進めています。遺伝子改変マウス/ラットの作製・解析を行い、個体レベルでの遺伝子機能の解明や先進的なモデル動物を応用した医療開発に貢献しています。</p>	
	<h3>7. 先端医療のトランスレーショナルリサーチ</h3> <p>がん治療用の遺伝子組換えヘルペスウイルスを用いた脳腫瘍の臨床試験実施の他、様々な抗がん機能を付加した治療用ウイルスの開発、新規のがん治療用ワクチンウイルスの開発研究、腫瘍細胞の活性化シグナルを標的とする分子標的治療薬開発などを行っています。</p>	
	<h3>8. 基礎医学研究</h3> <p>医学の発展に広く貢献するため、オリジナリティーの高い基礎生命科学研究を展開しています。疾病の発症や病態形成と密接に関連するシグナル伝達機構や、脳・神経科学などを中心に、分子レベル、細胞レベルのみならず、細胞間ネットワークや個体レベルでの多彩な研究を推進しています。</p>	

04 グローバルな研究・教育拠点

国際的研究活動と学術国際交流を通じて、医学の発展と、次世代を担う若手研究者の育成に貢献しています。



国際共同研究の推進とグローバル教育の拠点形成

医学研究所は、2018年に文部科学省の国際共同利用・共同研究拠点に、生命科学系の研究所としては唯一認定されました。世界的な枠組みでの共同研究を推進し、科学の発展とグローバル人材の育成に努めています。

国際的研究活動

本研究所では、多くの研究室が海外研究機関との共同研究を進めています。感染症領域では、海外拠点として中国北京市の中国科学院微生物研究所及び生物物理研究所に日中連携研究室を設置し、本研究所の研究者が2005年度から常駐して日中共同研究を推進しています。その他、イェール大学(アメリカ)、スタンフォード大学(アメリカ)、シカゴ大学医学部(アメリカ)、オックスフォード大学(イギリス)、パスツール研究所(フランス)、ミュンヘン大学(ドイツ)、中国農學院ハルビン獣医研究所等と国際的な共同研究を行い、世界最高レベルの研究を展開しています。また、2015年には研究の更なる国際展開を目指して、米国での産学連携の拠点となる東京大学ニューヨークオフィスを設置しました。



国際学術交流

本研究所は、フランスパスツール研究所、リヨン大学、シカゴ大学医学部、中国科学院等と国際学術交流協定を結び、学術分野での国際連携と人的交流に努めています。東アジア9研究機関で共同開催している「東アジアシンポジウム」や、12の生命系国立大学附属研究所が協力して開催する「生命医科学研究所ネットワーク国際シンポジウム」に毎年参加し、大学院学生や若手研究者が積極的に発表を行っています。また海外の国際学会での発表や、海外共同研究施設への短期渡航を推奨・支援しています。これらの活動は若手研究者の育成に寄与するだけでなく、新たな研究アイデアの創生や国際共同研究の発展に役立っています。



05 大学院教育

社会で活躍する研究者を育てる。
それが医科学研究所の教育ポリシーです。



世界で活躍する研究者を育てるための豊かな教育環境

大学院の各専攻カリキュラムに加えて、医科学研究所内で開かれるシンポジウム、数多くの多様な教育セミナー、技術室セミナー、スパコン講習会、非医師大学院学生のための病院見学実習など、付加的なカリキュラムを提供し、幅広い知識をもった研究者を育てます。海外で活躍する研究者によるセミナーが数多く行われ、英語で発表する訓練が行われています。これらにより英語でコミュニケーション能力を養い、博士後期課程の学生には海外での学会発表を奨励しています。

＜教育プログラム＞

教育セミナー

大学院学生を対象とした毎週のセミナーシリーズである大学院セミナーは、年ごとにテーマを決めて全国から第一線の研究者を招待して開催しています。他にも、国内外の機関で活躍する研究者を講師として招いての学友会セミナーや国際共・共拠点セミナーなど、多様な教育セミナーを開催しています。

非医師大学院学生のための病院見学実習

研究所に付属した病院をもつ医科学研究所ならではのプログラムです。少人数で医学概論や医療倫理、看護・薬物療法・橋渡し研究・臨床心理などの講習を受け、実際に病院内で行われている検査、治療、看護、先端医療開発を体験します。

＜学生生活支援＞

経済的支援

大学による学費免除制度の他、博士課程研究遂行協力制度、大学院・研究所によるリサーチアシスタント制度、ティーチングアシスタント制度などの経済的支援制度があります。博士課程研究遂行協力制度では、優秀な大学院学生の学業を奨励し、大学全体の研究レベル向上のために必要な研究業務を委嘱します。リサーチアシスタント制度では、特定の研究プロジェクトを効果的に推進するために必要な研究業務を委嘱します。ティーチングアシスタント制度では、優秀な大学院学生に対し、実験、実習、演習等の教育補助業務を委嘱します。これらの対価として報酬が支給されます。

なんでも相談室

所内に開設された相談室で、専門の相談員が予約不要で相談者を受け入れています。人間関係に関する悩み、学業の相談、心理相談、進路・就職に関する相談、法律的な問題、恋愛、健康、発達障害、学内外の情報検索…など、何でも相談することができます。問題解決に向けての提案を聞いたり、学内外の適切な相談施設への紹介を受けることができます。相談室に行くのが難しい方や、直接相談に行くのは気が引けるという方は、電話でも相談できます。

＜キャリアパス支援＞

就職支援・留学支援

キャリアパス支援セミナー等で、企業関係者から生の声を聞くことができます。また、ホームカミングセミナーなどで先輩たちの体験談を聞くことも可能です。国際学会・シンポジウムへの参加、共同研究先への短期派遣等の機会を積極的に利用して、自分の希望に合った留学先を見つけることができます。

大学院学生表彰

優れた成果を挙げた大学院学生に対して、「最優秀論文賞」や「優秀論文賞」を授与し表彰しています。その他、毎年創立記念シンポジウムに合わせて開催される研究成果発表会で、発表されたポスターの中から優れたポスターに対して、「創立記念ベストポスター賞」を授与し表彰しています。



アドミッション・ポリシー 医科学研究所で大学院生活を送るためには

医科学研究所には多様な領域の大学院学生が集っています。
出身大学も様々で、背景や専門、年齢に関係なく自由な雰囲気、勉学・研究に励んでいます。

医科学研究所は独自の大学院組織を持たず、各分野の教員が東京大学の様々な大学院研究科の協力教員として大学院教育を担当しています。従って、大学院学生として希望する教員の研究指導を受けるためには、その教員が所属する大学院・専攻を受験し入学する必要があります。各教員が所属する大学院組織は、「所属教員一覧」(下記URL)で調べることができます。各教員の研究内容は、ホームページのほか、毎年春に開催される大学院進学説明会で知ることができます。また、希望する教員に直接メールを送って問い合わせたり、予めアポイントメントをとって研究室を見学したりすることで、詳しい研究内容や研究室の雰囲気を知ることができます。受験すべき研究科および受け入れの確認のために、受験前に希望する教員と連絡を取ることを推奨しています。

所属教員一覧 ▶ <https://www.ims.u-tokyo.ac.jp/imsut/jp/education/supervisor/>

医科学研究所で研究・教育を受けることができる大学院は8つの研究科

研究科 教育・研究の目的

▶ https://www.ims.u-tokyo.ac.jp/imsut/jp/admission/link_dep/

● 新領域創成科学研究科

本研究科を構成する基盤科学、生命科学、環境学の各研究系ならびにメディカル情報生命専攻に共通する特徴は、既存の個別学問分野から派生する未開拓の領域を研究・教育の対象とし、人類が解決を迫られている課題に取り組んでいることです。

▶ <https://www.k.u-tokyo.ac.jp>

● 医学系研究科

本研究科は、生命現象のしくみの解明、疾病の克服および健康の増進に寄与する最先端研究を推進するとともに、医学系領域の各分野において卓越した学識と高度な独創的研究能力を有する国際的リーダーを養成することを目的としています。

▶ <http://www.m.u-tokyo.ac.jp>

● 理学系研究科

①自然科学を中心とする諸分野の研究の第一線で開拓的な研究を行う研究者、②国際的・学際的な研究プロジェクト等の中核となる研究者、③産業界の要請及び諸研究・現業機関等からの需要に応じた創意ある研究開発者、の養成

▶ <https://www.s.u-tokyo.ac.jp/ja/>

● 農学生命科学研究科

本研究科は、農学の基盤を形成する諸科学に関する世界水準の教育、研究を進め、人類が抱える食料や環境をめぐる多様な課題に取り組む専門性豊かな人材を養成することを目的としています。

▶ <https://www.a.u-tokyo.ac.jp>

● 薬学系研究科

本研究科は薬学の全ての分野において、最高水準の研究活動を行い、これに裏付けられた教育活動により、創薬科学および基礎生命科学の発展に寄与する研究者、医療行政に貢献する人材、高度医療を担う薬剤師の養成を教育・研究の目的としています。

▶ <http://www.f.u-tokyo.ac.jp/>

● 情報理工学系研究科

本研究科は、東京大学における情報科学技術に関する英知を結集し、21世紀へ向けた情報理工学に関する先進的大学院教育・研究の拠点となることを目指し、さらに教育・研究の成果を社会へ還元することのできる開かれた研究科であることを目指しています。

▶ <https://www.i.u-tokyo.ac.jp>

● 工学系研究科

工学とその活用に係わる研究、開発、計画、設計、生産、経営、政策提案などを、責任を持って担うことのできる人材を育成し、未踏分野の開拓や新たな技術革新に繋がる研究へと果敢に挑戦し、人類社会の持続と発展に貢献することを教育研究上の目的としています。

▶ <http://www.t.u-tokyo.ac.jp/soe/>

● 学際情報学府

学際情報学府は、学生が所属する「教育組織」です。学際性を特色とする情報学についての幅広い視野と、各学問分野での高度な専門的能力を身に付けた人材を持続的に社会に提供することを目指しています。情報に関する多彩な学問を修得するための「卓越の場所」です。

▶ <http://www.iii.u-tokyo.ac.jp/>

入試情報 ▶ <https://www.ims.u-tokyo.ac.jp/imsut/jp/admission/info/>

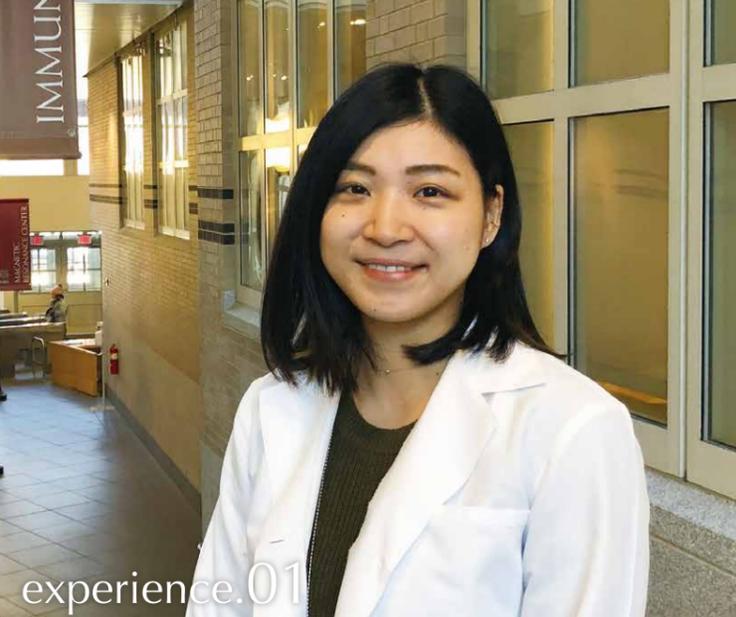
大学院進学説明会

大学院博士課程・修士課程への入学・進学を考えている方々を対象に、毎年4月に大学院進学説明会を開催しています。各教員が研究内容を紹介し、所属する大学院研究科・専攻について説明します。説明会の終了後に開催される懇親会(会費無料)に参加すれば、様々な教員と直接話をする事ができます。日程等の詳細は、医科学研究所ホームページ内「大学院進学説明会」のページをご覧ください。



入試情報

入試に関する情報は各専攻毎に異なります。受験を希望する専攻の最新の入試情報を参照してください。



研究者を目指す上でのアドバンテージ

森山 美優

イェール大学 博士研究員／元感染症国際研究センター ウィルス学分野

感染症研究を志して医科学研究所で大学院生活を過ごし、現在はイェール大学で博士研究員としてインフルエンザの研究を続けています。医科研を離れた今、設立当初から感染症研究を世界的にリードしてきた医科研で研究のいろはを学んだことは、研究者を目指す上で大きなアドバンテージだったと改めて感じています。最大の理由は、学生の内から世界の第一線で研究の面白さを実感し、視野も世界へと広がられたことです。一流の研究者による厳しい指導に加え、国内外の著名な先生方のセミナーの機会が頻繁にあるため、研究トピックの潮流も掴めたと思います。また、多様なバックグラウンドを持つ大学院生が集まり、切磋琢磨できる場所であることも大きな魅力です。ぜひ医科学研究所で研究者への一步を踏み出してみませんか。

experience.01

卒業生の体験談

研究生活の礎となった医科研時代

伊藤 博崇

医科学研究所 先端がん治療分野 助教／元先端がん治療分野

私が医科研で研究を始めた動機は、脳神経外科医として様々な疾患の患者さんの治療に携わり、多くの疾患で有効な治療法が開発されている中、悪性脳腫瘍の患者さんがまったくその恩恵を受けていない状況を目の当たりにし、悪性脳腫瘍の予後改善につながる新規治療法開発の必要性を痛感したことです。博士課程在学中には日本学術振興会特別研究員として悪性脳腫瘍に対する遺伝子組換えヘルペスウイルスを用いたウイルス療法の開発研究を行うとともに、附属病院で実施されていた悪性脳腫瘍に対するウイルス療法の臨床試験にもチームの一員として携わりました。博士課程修了後はハーバード大学に留学し、ポスドクとしてウイルス療法の研究開発を継続することができました。特に何かを学び始めるときは本物を見て学ぶことが大切ですが、今後の研究生活の礎となる大学院を世界最先端の研究が行われている医科研で過ごすことは、その後の大きな飛躍につながると考えます。



experience.03

卒業生の体験談



experience.02

多様性によって研究の領域が広がる場所

Alexis Vandebon

京都大学 ウィルス・再生医科学研究所 国際高等研究院 講師／元機能解析イン・シリコ分野

ベルギーで修士課程を修了後、文部科学省の奨学金を得て来日し、博士課程を医科研で過ごしました。バイオインフォマティクスの分野において、遺伝子制御のコンピュータ解析に焦点を当てた研究を行いました。経験豊富な研究者だけでなく、勤勉な学生に囲まれた研究生活は私にとって大きな喜びでした。医科研は、生物学・バイオインフォマティクス・統計学・機械学習を学ぶ仲間との出会い、さらには大規模な生物学的データのコンピュータ解析を行う最新技術を提供してくれる場でもありました。私は、医科研で世界的に有名な免疫学者との共同研究を行う機会を得ました。これが、卒業後の大阪大学免疫学フロンティア研究センターのポスドク研究員や、現在の京都大学ウィルス・再生医科学研究所の講師としてのキャリア形成と免疫系における遺伝子発現調節の研究の継続につながっています。

最先端の研究に没頭できる場所

臼居 優希

中外製薬株式会社 研究員／元自然免疫制御分野・システム免疫学会連携研究部門

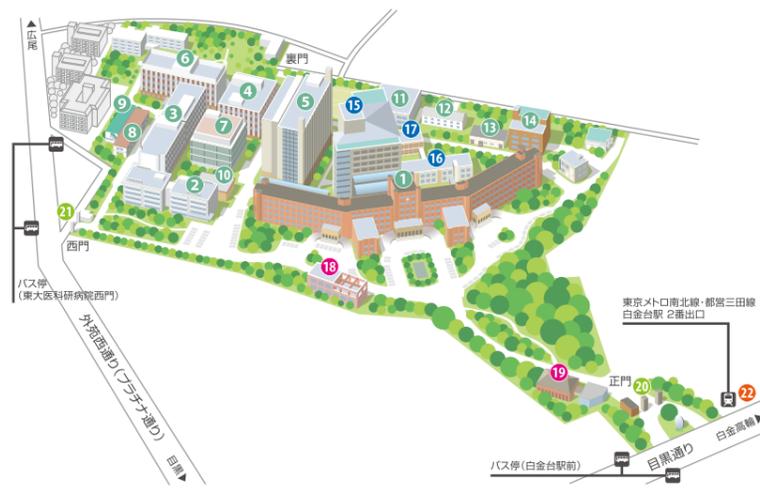
私は、東京大学医科学研究所で大学院を5年間過ごさせていただきました。医科学研究所は、トップレベルの研究室が揃っており、研究者間の交流も盛んに行われ、最先端の研究に没頭できる素晴らしい環境です。また、在学中に所属していたリーディング大学院のプログラムを利用して、海外の研究室へ留学する機会をいただきました。自身の研究分野の専門性を深めつつ、分野横断的な視点を持つことができました。現在は、中外製薬株式会社の研究員としてバイオ医薬品の製造・開発に携わっています。医科学研究所で培った研究スキルや思考を礎に、日々更なる研鑽につとめ、患者さんに革新的な医薬品を届けることに貢献していきたいです。最後に、ご指導を賜った指導教員の先生方、ならびに、お世話になった皆様に感謝申し上げます。



experience.04

卒業生の体験談

キャンパスマップ



- ① 1号館
- ② 2号館
- ③ 3号館
- ④ 4号館
- ⑤ 総合研究棟
- ⑥ ヒトゲノム解析センター
- ⑦ 動物センター
- ⑧ 旧ゲノム解析センター
- ⑨ クレストホール
- ⑩ アムジェンホール
- ⑪ 合同ラボ棟
- ⑫ 研究棟別館
- ⑬ 治療ベクターセンターユニット
- ⑭ 臨床研究A棟
- ⑮ 附属病院A棟 (病院棟)
- ⑯ 附属病院B棟
- ⑰ 附属病院C棟
- ⑱ 白金ホール
- ⑲ 近代医科学記念館
- ⑳ 正門
- ㉑ 西門
- ㉒ 白金台駅 (2番出口)
- 東京メトロ南北線
- 都営地下鉄三田線

campus events: キャンパスでは、研究の手を休めて四季折々のイベントを開催。大学院学生たちのくつろぎの一時となっています。

